



プレスリリース

平成29年4月25日
内閣府
沖縄振興局
政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

沖縄県離島でのバス自動運転実証実験について

3月3日より公募しておりました、沖縄県の離島におけるバス自動運転の実証実験について、石垣市（石垣島）で実施することとなりましたので、お知らせします。

1. 概要

内閣府では、交通環境の改善が求められている沖縄において、自動運転技術の早期の社会実装を推進していくため、科学技術・イノベーション担当部局と沖縄担当部局が協力してバス自動運転技術に係る実証実験を本年3月に沖縄県南城市において実施したところです。

さらに、自動運転技術を活用したバス事業の活性化等を促進するため、第二弾の実験として、少子高齢化や観光客の増大に対応する移動手段の確保といった離島が抱える交通問題の解決に向けて、離島での実験候補地を公募してきたところです。

今般、応募のあった市町村の中から、本年6月の実証実験箇所として石垣市（石垣島）の新石垣空港～石垣市中心部の間（詳細は調整中）を選定致しました。

2. 実証実験の概要

- 1) 実施時期 平成29年6月（予定）
- 2) 実施予定エリア 新石垣空港～石垣市中心部の間（詳細は調整中）
- 3) 主な実施内容等
 - ・地元住民、観光客等を対象としたモニター乗車及びヒアリング
 - ・自動運転技術を使ったバスの社会受容性調査 等

3. 今後の予定

- ・今年度の実証実験の日時・内容等詳細は、改めてお知らせします。
- ・実験実施に当たっては、具体的な実験条件や安全管理等について、関係者と調整の上、進めてまいります。

<問合せ先>

離島における実験については・・・

内閣府 沖縄振興局

振興第一担当参事官室（滝澤、岩本、普天間、玉盛）

電 話：０３－６２５７－１６６５（直通）

FAX：０３－３５８１－１６８３

政府における自動運転技術の開発については・・・

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付

SIP 自動走行システム担当（森下、石黒、杉江）

電 話：０３－６２５７－１３１４（直通）

FAX：０３－３５８１－９９６９

(参考) 実施予定エリア図



(注) 今後の検討・調整により、一部変更等を行う可能性あり

沖縄の新たな交通環境創造会議の開催について

1. 趣旨

平成28年11月に「沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会」で取りまとめられた提言「沖縄の新たな交通環境の創造に向けて」においては、ハード整備のみならず、ソフト対策、県民意識まで踏み込んだ多岐にわたる示唆に富む内容が盛り込まれており、沖縄の新たな交通環境の創造に向けた出発点として大きな意義がある。

これら施策の実現にあたっては、国、県、市町村の各行政機関が、相互の連携を一層密にしつつ、関係するバス事業者、モノレール事業者などの交通事業者、民間企業、ひいては県民との連携協力も強化し、関係者が問題意識を共有しながら、強い意志をもって継続的に取り組んでいくことが極めて重要である。

新たな交通環境の創造に向けた実効ある取組を、すべての関係者が連携協力して具体化し、推進していくため、「沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会」提言を受けて「沖縄の新たな交通環境創造会議」を開催する。

2. 構成員

会議の構成員は、別紙のとおりとする。ただし、必要と認める場合には、構成員を追加することができる。会議は必要に応じてその他の関係者の出席を求めることができる。

3. 会議の役割

沖縄における新たな交通環境を創造するため、関係機関及び関連協議会等の取組をふまえながら、今後の方針等について議論を行う。

4. 庶務

会議の庶務は、政策統括官（沖縄政策担当）及び沖縄振興局の協力を得て、沖縄総合事務局において処理する。

5. その他

前各項目に定めるもののほか、会議の運営に関する事項その他必要な事項は、会議において別に定める。

創造会議構成員名簿(案)

	氏 名	所 属 等
1	安里 昌利	沖縄県経営者協会会長
2	有住 康則	琉球大学工学部長
3	川上 好久	沖縄振興開発金融公庫理事長
4	合田 憲夫	(一社)沖縄県バス協会会長
5	古謝 景春	沖縄県市長会会長
6	下地 明和	沖縄県企画部長
7	城間 幹子	那覇市長
8	平良 敏昭	旭橋都市再開発株式会社代表取締役社長
9	東 良和	日本旅行業協会(JATA)理事
10	美里 義雅	沖縄都市モノレール株式会社代表取締役社長
11	與儀 弘子	沖縄県公安委員、元那覇市副市長

〔五十音順〕

- 全国県庁所在地中で最も深刻な那覇都市圏の道路渋滞を解消するためには、脆弱な公共交通の活性化が必要

○一方でバス自動運転の実証実験の取り組みがSIP※を中心に進められ、次世代都市交通システムの地方展開等に向けたモデルケースとなる取り組みを沖縄で推進中

○H29年度前期に、（仮称）沖縄次世代都市交通システム（Okinawa-ART）検討会を発足し、自動運転技術等の導入に向けた検討を開始
- ※SIP：戦略的イノベーション創造プログラム

次世代都市交通システム

ART(Advanced Rapid Transit)

BRTに加えて自動運転技術等を活用してドライバーの運転を補助し、常に正確で、安全、快適な運行を目指し、滑らかな交通流動の実現や車いす利用者等もスムーズに乗降可能な隙間と段差の実現等への取り組み。

BRT(Bus Rapid Transit)

速達性・定時性の確保や輸送力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム

【車両・設備の高度化】

- 車両・設備の高度化を図り、利便性・快適性を向上
- ・連結ノンステップバス（大容量、バリアフリー、快適性）
- ・バス停のハイレード化（雨天時の快適性、円滑な乗降）
- ・バスロケーションシステム（バス待ち時のイライラ解消）等

【運行の効率化】

- 運行の効率化を図り、最適な交通ネットワークを構築
- ・急行運行
- ・バス路線の再編（幹線・支線）

【定時・速達性の確保】

- 走行環境の改善を図り、定時性・速達性を確保
- ・専用走行路
- ・専用レーン、優先レーン（バスレーンのカラー塗装）
- ・PTPS等による信号制御

参照）BRTの導入促進等に関する検討会（H25.10 国土交通省）

沖縄次世代都市交通システム（Okinawa-ART）のイメージ



乗降時間短縮、乗換安全性向上

- ・ノンステップ化
- ・自動走行（正着）技術 ※
- ・ICカード（OKICA）

安全性・快適性向上

- ・高度運転支援 ※
- ・車椅子等搭乗時対応制御 ※
- ・最適加速制御、衝突回避制御 ※

速達性、定時運行性の向上

- ・基幹バス
- ・バス専用、優先レーン
- ・PTPSの高度化 ※
- ・基幹⇔支線バス、モノレール等のシームレスな乗り継ぎ

待合空間のユニバーサル化

- ・ハイレードバス停
- ・情報発信（運行情報）

観光客への対応

- ・多言語化
- ・観光情報発信
- ・全国系IC対応

運行の効率化

- ・バス網再編（基幹、支線）

トータルデザイン

- ・PR性の高い先進技術の導入
- ・一貫したデザインメッセージ
- ・まちづくりと一体となったシステムデザイン

※はバス自動運転技術関連

- 沖縄の交通環境やニーズ等に合わせ、ステップ・バイ・ステップで実施。
- 内閣府の沖縄担当部局における地元自治体等との緊密な連携による各種取り組みとの相乗効果を発揮。
- 今後の自動運転技術の活用等について、関係者の協調、協力体制を構築し、沖縄での公共バスの利便性向上による交通改善、地域社会の活性化等を目指す。
- 「次世代都市交通システム」の地方展開や公共交通分担率の向上等にむけたモデルケースを確立。

●南城市自動運転実証実験（H29.3.20～）



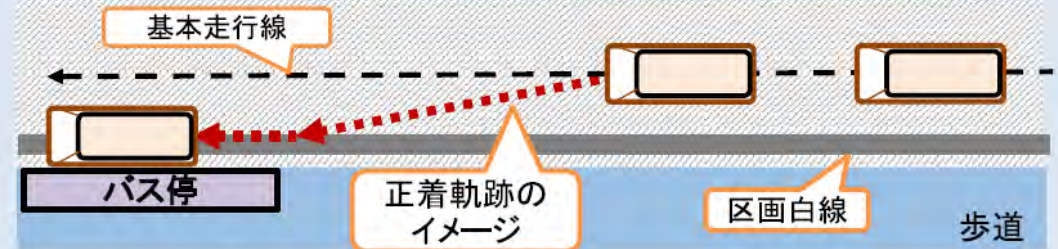
○ 第Ⅰ、第Ⅱステップにおけるバス停への正着制御機能の検証

＜正着制御のイメージ＞

車いすや高齢者の方々も乗り降りしやすいよう、バス停にほぼ隙間なく正確に横付け



地域のコミュニティバス等での自動運転技術の活用を想定し、小型バス車両を用いて実証



○ 第Ⅲステップにおける自動運転機能の検証

走行環境認識性能の向上等による自動運転機能の実証



平成28年12月26日 実施概要の公表

平成29年3月20日～4月2日 実証実験 ー第Ⅰステップー

公道にて、公共バスの制御の技術実証等を実施。

- ✓ 走行ルートでの自動運転の性能評価（正着制御の精度や車線維持制御の安定性などを検証）
- ✓ 走行状況のデータ収集・モニタリング、運行管理等のシステム検証
- ✓ 自動運転技術を使った公共バスの社会受容性調査 等

平成29年6月 離島での実証実験実施 ー第Ⅰステップー

地元住民、観光客等を対象としたモニター乗車及びヒアリング
自動運転技術を使ったバスの社会受容性調査 等

平成29年度 実証実験 ー第Ⅱステップー

公道上の交通環境にて、公共バスの正着制御の技術実証等を実施予定

平成30年度 実証実験 ー第Ⅲステップー

公道上の通常の交通環境にて、公共バスの正着制御を含むより高度な自動運転バスにつき、技術実証等を実施予定※。

※今後、詳細検討を進める予定